

No. 2505



# 教育ルネサンス

## 教員の働き方 2

# 学び育む

### 助っ人活用 専門性生かす

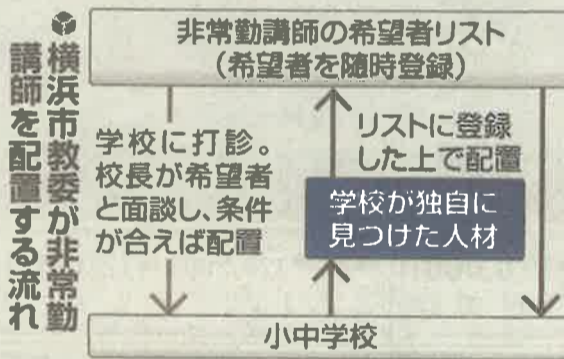


コロナ禍による長期休校で生じた学習の遅れや精神面の対応には、きめ細かな配慮が欠かせない。

横浜市教育委員会は市立の

小中全487校に非常勤講師らを1人ずつ追加配置し、教諭をサポートする。  
市立本牧南小(児童数約250人)に今月配属された非常勤講師の中村直子さん(26)は、木村直子主幹教諭(47)に代わって、4年算数の少人数指導などにあたっている。

木村教諭は主に、不登校の児童やいじめに関わった子、日本語に不慣れな子らへの対応を担当しているが、これまでは算数や書写の授業にもあたっていた。  
しかし、学校再開後の算数の少人数指導にあたる非常勤講師の中村さん(21)曰、横浜市立本牧南小で



横浜市教委が非常勤講師を配置する流れ

6月上旬に行ったアンケートでは、児童の2割に「イライラ」や「生活リズムの乱れ」などがあつた。そこで、谷口なおみ校長らは、木村教諭が受け持つ授業を減らす一方、子供たちの精神的なケアなどに注力してもらうことにしたという。「コロナ禍で時間的

な余裕は少ない。専門性をより生かせる人員の配置や働き方が求められる」と谷口校長は強調する。

児童生徒の学習の遅れや学力差への対応が求められる中、学校業務を効果的に分担し、教育の質向上を図る動きが広がっている。

市立新吉田小(児童数約700人)は、「3密」を避けるため、音楽と体育の授業ではクラスを二つに分け、体育は非常勤講師、音楽は別の専科教員に任せることにした。担任教諭は空き時間ができ、授業準備や教材研究に充てられる。中学校には、受験を控えた3年生の放課後自習を非常勤講師が担当し、教諭らは再開し始めた部活動の指導にあたっている例もある。

学校現場を支援しようと、文部科学省は、放課後の補習や授業のサポートにあたる教

員経験者や塾講師、大学生らの人材バンクを開設。人材配置を補助する予算も計上している。

仙台市教委は、学力差がつきやすい算数・数学の授業の補助や補習を担当する学習支援員約170人を募集し、市立小中学校に順次配置する予定だ。神戸市教委は、市立小中学校で補習を担当している学習指導員の勤務時間を延長し、児童生徒の要望に応えやすいようにする。

ただ、人材確保が難航している地域は少なくない。学校現場に詳しい早稲田大学の田中博之教授(教育方法学)は「再開後の学校は授業内容が過密になり、教員は疲弊している。一番欲しいのは新たな人材だ」と話す。学校の校長らには、各校が抱えている課題を克服するためにも、人材を確保し、効果的に配置することが求められそうだ。